

令和 7 年度 自己評価結果公表シート

茨木みのり幼稚園

スローガン

- ・ みんなであそぼう！おおきくなろう！
遊べる子どもになろう
豊かな体験
生きる喜びを

1. 教育理念

- ・ 人と人とがかかわって豊かな遊びが発展していく環境を作る。
- ・ 子供の主体性や感性、知性そして人間性を育む教育の実践

2. 教育目標

- ・ ひとりひとりの個性を大切にしながら、明るく生き生きとした子どもの育成に努めます。
- ・ 基本的な生活習慣、態度を育て健康で丈夫な身体をつくります。
- ・ 自分で考えて行動できる力を養います。
- ・ 人との関わりの中で社会性、協調性を養います。
- ・ さまざまな体験を通して豊かな感性、創造性を育てます。

3. 教育方針

- ・ 子どもにとって良い環境を整え、明るく伸び伸びとした集団生活を営ませます。
- ・ ひとりひとりの子どもの発達段階に応じた保育を行います。
- ・ 様々な人や物も出来事と出会い、興味や関心を大切に、意欲や思いやりのある子どもを育てます。

4. 本年度、重点的に取り組む目標や計画（※下線が新たな取り組み）

- ・ 10の姿をより意識した活動を展開する。（継続）
- ・ 個別支援への取り組み（情報共有と保護者との関係性と信頼構築の確立へ）
- ・ 自己評価の分析及び取り組みへの課題と実施について（振り返り）
- ・ ICT化の導入による業務の簡素化・簡略化へ
- ・ SDGsを意識した保育を取り入れる
- ・ 自然災害に於ける安全点検の強化へ

5. 評価項目の達成及び取り組み状況（1学期・2学期）

評価項目	取組状況
10の姿をより意識した活動を展開する	・ 教育課程、月ごとのねらいや内容を理解し、10の姿と関連付けて保育計画が立てられ、進めていけるようにする。 ・ 研究保育の指導案に当てはまる項目がわかるように意識づける。
<u>個別支援の取り組み</u>	・ 保護者の個別支援に対する理解と各関係機関と連携の理解園児・保護者共に安心して園生活が送れるように努める。 ・ 連携施設からの助言をもとに個別支援計画書の作成を図る。 学期ごとに保護者面談の実施
ICT化	・ 業務の効率化を図る。園の記録業務の簡素化へ、重複している作業の削減や行事計画書のフォーマットの簡略化 ・ アンケートをすべてシステム化（紙媒体の減少へ）

SDGs の取り組みへ	・紙の使用を削減する「ペーパーレス化による ICT 導入」 ・菜園活動（栽培）や厨房とのやり取りを通して、食に関する知識とバランスの良い食を選択する力を育む ・食品ロス削減に向けた「給食量の調整」
子育て支援について	・昨年度より、平日開催のイベントが定着したことにより保護者の参加者は増加する。一方で季節の行事製作あそびや専門講師によるイベントは人数制限を行うほど参加者が増加すると共に園への関心が高くなる。（※申し込みは、ホームページより）
自己評価の分析 （振り返り）	・各職員に於けり保育の振り返りを実施する。各データより要点の園の強みと弱みを確認する。特に意識が低下している部分については職員で共有し意識した取り組みを保育計画に取り入れる。 （強化課題：異年齢児の交流・保幼小中の連携） ※自己の評価サイクル（PDCA）を高める
施設整備・修繕について	・雨漏りや、ガラスのひび割れ等、自然災害（暴風・大雨等）による修繕を行う。それに伴い、<u>園内外の遊具点検以外に安全点検の強化を図る。（※安全点検表の作成）</u>

6. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 までの実施評価

・大阪万博を機に、SDGs への関心を高める取り組みを検討する。万博のテーマである「持続可能な社会の実現」を幼児期で取り組める内容を検討し「自然環境」の興味関心を高める取り組みを実施した。食育より、「バランスの良い食を選択する力を育む」為に菜園活動にて収穫した野菜を厨房へ直接手渡し、自分たちで育てた野菜を食す喜びを伝える。調理員との距離を身近で感じられる様に菜園活動（水やり）の後に、必ず厨房を覗く機会を意図的に多く取り入れる。調理作業を見学することで様々な食材を目にする機会も増え、色々献立にも興味を高め食べる意欲に繋がった。 ・厨房管理（栄養士）との給食会議を実施（※月 1 回程度を目標に取り組む） ・保護者の方が、臨床心理士との面談を希望いただける様に働き掛けると共に、集団・個別支援を両立することで、本児の成長を促す機会となった。保護者からは、両立することで、本児の成長と共に支援の重要性の理解が深められている。（※面談の機会も昨年度より増） ・自己評価表について、分析と今後の取り組みについて検討する機会を 2 学期に実施する。強みと弱みの共有を行うと共に、明確な課題に取り組む方を話し合う機会となる。但し、課題の内容によって対外的な部分でのミーティングも必要である。特に、保幼小中の連携が弱いと感じている。今後、小学校の教職員からの幼少期（就学まで）までに育って欲しい姿を共有できる機会を作る。 ・施設整備・修繕について、管理表の作成を行う。

7. 今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
教育課程や教育目標を理解する	・保幼小の連携強化について具体的な取り組みの構築を図る。 ・幼少期（10 の姿）の活動（カリキュラム）の導入
SDGs	・資源の再利用・リサイクルに目を向ける（※廃材あそびからヒント）
子育て支援について	・こども園へ移行に意識した乳児が参加できるイベントの実施
自己評価からの取り組み	・各関係機関への働きかけを実施する。

8. 学校関係者評価委員会の意見

- ・ 小学校との連携について、小学校ではタブレットを導入している。就学に向けて幼稚園で各自タブレットの導入は検討していますか？
幼稚園教育の場では、各クラス1台は導入しております。内容によってタブレットで検索することはあります。タブレットのある環境に少しずつ馴染む様には努めています。
各自、1台は検討していません。
学校長（評価委員）より、タブレットの操作は、小学校からで問題はないです。
- ・ 園児数が減少しているが、今後、バス通園は検討していますか？
今まで通り保護者の方に送迎頂き、道中は親子での貴重な時間と捉え大切にしたいと考えています。通園バスを走らせることにより、経費が膨らむと判断しております。また、事故・事件などの危険性も含む為、今後もバス通園の検討はいたしません。
- ・ インクルーシブ教育について、課題はありますか？
一人一人の特性に応じた指導・支援や配慮に共ない、職員の配置が必要となる。今年度は、必要な補助職員が配置出来ている為、落ち着いて過ごす環境を整えることができます。
また、各関係施設とも連携が図れ個別支援のより充実が図れています。
- ・ 地区ごとで開催している、文化展に子どもの作品や絵画を展示してもらえると嬉しい。
(2月頃開催)
地域との交流は大切にしています。もちろん参加させていただきます。

9. 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされていると認められている。

